

# (一社) 近江八幡青年会議所 「原点」

～初心を貫き、すべては明るい未来のために～



## 定期広報『ひろば』

*SPECIAL TALK*

近江八幡市の市政について語る

小西 理 × 小川 芳克

近江八幡市長

近江八幡JC第52代理事長

今月のトピック

1 理事長×近江八幡市長

SPECIAL TALK

2 クローズアップ

JAYCEE

3 コラム・編集後記

Omihachiman City  
近江八幡





## 近江八幡J.Cの今年度の運動展開について

**小西理（以下、市長）**：近江八幡市長の小西理です。市長に就任しまして3カ月になります。本日はよろしくお願い致します。

**小川芳克（以下、理事長）**：近江八幡青年会議所（以下、近江八幡J.C）第52代理事長の小川芳克と申します。本日の対談を大変楽しみにしております。

市民の方の関心が高い、庁舎のビジョンについて、行政に対する市長の考えを伺いたいと思っております。よろしくお願い致します。

**市長**：私は、まちづくりにおいて尖ったことができるのはJ.Cであると思っております。J.Cの運動・活動には大きな期待をしております。近江八幡J.Cの今年度の方針をお聞かせいただけますか。

**理事長**：近江八幡J.Cでは、今年度、愛郷心や青少年育成事業に重点を置いております。

近年、近江八幡市は昼間人口が減少し、少子高齢化が進み、市の財政にも影響を及ぼしております。

我がまち、近江八幡からの人口流出に歯止めをかけたかと思ひ、そのためにはどうしたら良いのかを考えたところ「故郷を思う心」が大切なのではないかと、という考えに至りました。

具体的には、将来を担う青少年の故郷を想う気持ちを育てたいと思っております。

子どもたちの愛郷心を育むという目的で、去る7月28日に「はちまんフェスタ2018」という事業を開催致しました。

**市長**：近江八幡市としても本年度は子どもたちに郷土の歴史と文化を学ぶ郷土教育を行うよう、教育委員会に申し出ております。その点については、小中学校で市として取り組みたいと考えています。故郷を好きになるために、まずは故郷を知ってもらう目的で行う予定です。

## 市庁舎のビジョンについて

**理事長**：市庁舎について、私なりに考えていることなのですが、庁舎の基本方針をより明確にさせていただけると市民にもっと理解いただけるのではないかと思っています。

また、無期限開催延期となっており「てんびんまつり」に関して、市民アンケートによりますと実に80%以上の方が開催を望んでおられるそうです。私は、庁舎に市民が自由に利用できる、集える場所があればさらに良いものではないかと考えています。

さらに、近年の気候変動を踏まえた防災であったり、市民サポートに関する

理念についてもどのように考えておられるのかご教示いただきたいです。

**市長**：私の基本理念は、庁舎ありきではございません。まず、震度7に耐えうる防災拠点が必要であると考えています。もう一つは相談センター機能が重要です。

市役所は市民の方に来ていただくのみならず、市民の皆様のごところに向いていくことも大切です。何らかの手続きのために市民が動くことはあるでしょうが、窓口となる場所は多くあっても良いでしょう。市役所はブレインとして機能し、市職員は市民に近いところにいる。市民に寄り添うということを目指しております。

現代では、市民の行動様式は多様化しています。老若男女が暮らし方に関わらず誰でも市役所にアクセスでき、必要な情報を収集できるようにしなければいけないと思っております。

そのほかには、開かれた市役所を目指しております。私が市長に就任する前は、あまり情報公開がされていないように感じておりました。市民の皆様は批判を恐れず情報を公開していき、皆様の声を捉えて、できるだけオープンにしていきたいと考えています。市民が主役となり問題を修正していくためにも市役所はオープンでなければならぬと考えています。

この点がとても重要だと思っておりますので、ハード面である市庁舎（建物）についてはこれらを踏まえてどのようにデザインしていくかが重要であると考えています。

あとは少子高齢化が進んでおりますので維持費を抑えることはすごく大切だと思っております。

できる限りコストを抑え、市民の皆様に戻していきたいと考えています。

**理事長**：ハード面ありきではなく、目的や機能面、すなわち「あり方」が重要なので、集える場所については、地域の人が寄り合う場所が少なくなり、人々のつながりが希薄になってきているように感じています。

近江八幡市の中でも金田学区、桐原学区は人口が増え、小学校はマンモス校と云っても過言ではありません。反対に、私の地元の小中学校では子どもの数が減り全校生徒が20人にも満たない状況です。

**市長**：イベントができる場所、みんなで寄り合える場所が必要ということは認識しています。特に、てんびんまつりは、私の任期中に復活したいと思っております。そのような声が本場に多いのです。

また、地域の話になりますが、これは皆様の意見もお聞かせいただきたいのですが、近江八幡市はエリアを3区分程度に分けてそれぞれに適したアプローチをしていくべきだと考えています。

例えば、武佐、馬淵などの地域では地域おこしで盛り上げて、魅力あるコミュニティを作り、若い人たちに住んでもらうことが優先課題でしょうし、金田学区では自治会の組織率の低さが問題になっています。特に、鷹飼北では2割を下回っているのです。







それぞれの地域によって、違った問題がある。近江八幡市の行政としてここにとのように関わっていくかは大きな課題です。

話は戻りますが、市庁舎に関しては、20代、30代の若い職員を中心とした検討チームを発足させるつもりです。若い人のほうがアイデアも出るはずですので意見を取り入れていきたいと思っています。

具体的にどのような構想を盛り込むかについては今後検討していきます。新庁舎の予算については賠償金や耐震等も含めまして総額で50億円程度におさめたいと考えております。従前の庁舎案では百億円は超えていたでしょう。これでは市の財政に大きな影響を与えることになります。

新庁舎にそれだけの予算を割いてしまうと、子育て施策やまちづくりに関する施策にも影響が及びます。結果的に市民の活力をそいでしまうことになるのではないのでしょうか。

**理事長：**理解致しました。ほかにも小西市長は様々な施策を講じておられて、例えば待機児童の問題や子どもの医療費の問題などもすべて財政が関わってきますものね

**市長：**おっしゃる通りです。近江八幡市ではこれまで、使い切れなかった予算は基金として積み、それを公共工事に使ってきましたが、今後は子育てに使うとを考えています。

待機児童の問題は、待機児童を単に解消するだけでなく、質の向上も伴わなければならないのです。子どもの医療費の問題も公約に掲げておりましたので優先的にやっていきたいと思っています。

**理事長：**市長の思いを拝聴し、私も大いに共感が持てました。私たちも様々な形でお手伝いをさせていただきますだけだと思います。

**市長：**新庁舎については、JCからも提言書などを送ってください。自分たちの手で作る市庁舎にしましょう。是非色々な意見をいただけたらと思います。

**理事長：**積極的に関わりたいと思っております。どうぞよろしく願います。

**これからのまちづくりについて**

**理事長：**私たち近江八幡JCでは「まちづくりは人づくり」を掲げており、近江八幡も今後、超少子高齢化社会に突入することが予測されますが、子どもたちの愛郷心を育み、地域の活性化に取り組みたいと考えています。

その中でまずはJCのメンバーから人づくりをし、メンバー自身が経済活動を通して地元経済を支えたいと考えております。

小西市長はまちづくりに関してどのようなお考えをお持ちですか。

**市長：**私は、まちづくりには、コミュニティの維持や福祉を含めたサービスマチなどの基礎インフラという意味でのまちづくりと、観光産業でまちを活気づける、働く場を作るという意味でのまちづくりの二つがあると思っています。

前者は、市民ボランティアの存在が重要になります。行政任せにするのではなく、市民の活動を行政がサポートするという視点も必要だと思います。できるだけ多くの市民に関わってもらうために、地域通貨のようなものを導入し、ボランティアをするとポイントが貯まり、そのポイントを市内の商店等利用できる、というような制度があれば良いかなと思っております。現在検討中です。

後者の観光産業ですが、近江八幡市はいまだに昭和や明治時代の雰囲気が残るまちなので、これをうまく活用できればと思っています。



古いものの良さはそのまま残し、新しいものと融合していくとそれが魅力となります。そこに人が集まるとまちに活気が出ますし、その中で観光資源が発掘されればとても力強いまちづくりができると思っています。

例を挙げるとアメリカのサンフランシスコのサウスサリートのようなまちが私の一つの理想です。リゾート地のような雰囲気のみちに人が集まってきて、会社があり、一つのコミュニティが形成されています。魅力あるまち並みを気に入って人が集まるようなまちにしていきたいと思っています。

**■近江八幡JCと近江八幡市との今後の協働について**

**市長：**近江八幡JCは今後、近江八幡市とどのような関わり方・協働関係を考えておられますか。

**理事長：**近江八幡市のために精一杯尽力させていただきますと思います。今回の対談を踏まえ、今後は提言も行えるよう、事業を通して多くの市民の方々と関わり、市民の声が届けられるよう使命感を持って取り組んでまいりたいと考えています。

**■対談を終えて**

**理事長：**このような近い距離で市長のお考えを伺い、心に響くものがありました。大変貴重な機会をいただきました。ありがとうございます。

**市長：**これを一つの機会としてお互いが壁なく仲良くやっていけると良いなと思います。JCは地域の課題に真摯に向き合う団体であると思いい、期待しています。これからもよろしくお願致します。

(注：8月2日時点での内容です)





# 👉 クローズアップ JAYCEE 🚶

## 1. 2018はちまんフェスタ

7月28日(土) 近江八幡市文化会館にて、7月事業「はちまんフェスタ2018」を開催致しました。子ども達の笑顔が印象的でした。



## 2. 滋賀ブロック大会近江八幡大会

9月8日(日) 近江八幡市文化会館・ホテルニューオウミにて県内11の青年会議所が一堂に会する滋賀ブロック大会近江八幡大会を盛大に開催致しました。



## 👉 コラム 「てんびん棒」

新聞や書籍などで「ビッグデータ」という言葉を聞いたことのある方は多いと思いますが、「RESAS(リーサス)」という言葉は初めて聞く方が多いかもしれません。「RESAS」とは、内閣府のまち・ひと・しごと創生本部が運用している、いわゆるビッグデータを可視化しているシステムのことを言います。

このところ新聞などで「人手不足」の文字をよく目にしますが、我々の知らないところで、確実に日本の産業構造は変化しています。という、少し難しく聞こえるかもしれませんが、身近なところでは、「田舎でも外国の人をよく見かける」「ハローワークで求人募集をかけても応募がこない」「滋賀県の最低賃金が839円になっている」「昼間は町に若い人がいない」などなどこのところ急激に世の中の情勢が変わりつつあります。

では、我々の住む街はこれからどうなっていくのか。少し不安になられた方もおられるかと思えます。そんなときは、これ!インターネットで“リーサス”と検索をしてみてください。近江八幡市の人口や産業が今後どのように推移していくのか、全てがリアルなデータで「見える化」されています。秋の夜長に自分の街の近未来をちょっぴり眺めてみるのも良いかもしれませんね!

## ～編集後記～

今年も早いものであと二ヶ月と少しになりました。毎年、年末が近づいてくると気になるのが「今年の漢字」なんですよね(^\_^)調べてみると、1995年(平成7年)に始まったことが分かりました。そう、意外と歴史は浅かったのです。では、どのようにして「今年の漢字」が決まるのかということ、日本漢字検定協会が全国から募集して、最も応募数の多かった漢字になるそうです。清水寺の住職が決めていたわけではなかったのです。今年には本当に自然災害の多い一年となりました。来年は元号も変わり、平和な一年となることを願いつつ本年度最後の広報誌「ひろば」を締め括りたいと思います。ありがとうございました。



No.294 2018年6月20日発行 一般社団法人 近江八幡青年会議所  
〒523-0893 滋賀県近江八幡市桜宮町231-2  
TEL 0748-33-5344 FAX 0748-32-3167  
Mail info@8man-jc.net/

